

VII 地域教育研究センター

地域教育研究センターは、本学が、社会に貢献する大学として、地域コミュニティに根ざし、また、未来を拓く「知の拠点」としての役割の強化並びに本学の教育理念である「地域社会志向教育」を実現するために、平成24年4月に設置された。

1. 地域教育研究センターは、中山間対策など高知県や地域が抱える現状や課題、ニーズを把握し、県・市町村や地域の諸組織、本学卒業生などとともに本学との協働体制を構築し、機能させる仕組みづくりを行い、全学体制で課題解決に取り組む。
2. 地域課題に関する情報を入手できる環境を整備し、学生が主体的に行動できるよう、プログラムや支援体制を充実させる。
3. 公開講座、県民開放授業、履修証明プログラム、科目等履修生制度等を活用し、県民が学び続けることのできる生涯学習プログラムを構築し、実施する。
4. 専門職者を対象とする研修会やリカレント教育を実施し、最新の知識や高度な技術を伝え、専門職者の力量アップを支援する。
5. 地域の教育機関や行政等との連携を図り、共同事業等を通じて、児童や生徒の学問に対する興味や関心を高めるための公開講座や出前講座等の学習支援活動を実施する。

<事業実施状況>

【履修証明プログラム】

平成26年度から「履修証明プログラム」を開始している。
昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募集中止となった。

【高知県立大学県民開放授業】

県民開放授業は、平成14年度後期から、文化学部の公開講座の一つとして始まった。平成25年度には、地域教育研究センターが「AERU県民公開授業」を開始した。平成26年度からは、上記2つの事業を統合し、「高知県立大学県民開放授業」を実施している。
昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募集中止となった。

【高大連携事業】

(1) 小・中・高等学校への出前講座

学問に対する興味・関心を高め、大学で学ぶことの魅力や楽しさについて知っていただくことを目的に、高知県内の小・中・高等学校の児童、生徒を対象に、出前講座を実施している。

延べ受講者数:927人

No.	学校名	実施日	対象者	講師名		テーマ	受講者数
1	馬路中学校	令和3年6月1日	全学年	文化学部	宇都宮 千穂 准教授	地域づくりを考える	12
2	大川中学校	令和3年7月8日	中学3年	健康栄養学部	小林 淳 教授	飲み水の作り方	5
3	大川中学校	令和3年7月9日	中学3年	健康栄養学部	廣内 智子 講師	巨大地震に備え今すべき食料備蓄	5
4	馬路中学校	令和3年7月12日	全学年	文化学部	高西 成介 教授	漢字のしくみ・おもしろさ	12
5	高知北高等学校	令和3年7月14日	高校2年生	地域教育研究センター	石山 貴章 教授	心理学ワールド	60
6	大川小中学校	令和3年9月24日	小学6年～ 中学3年	社会福祉学部	雑賀 正彦 助教	地域福祉とは:人と人がつながる大切さ	5

No.	学校名	実施日	対象者	講師名		テーマ	受講者数
7	土佐女子中学校	令和3年10月6日	中学2年	看護学部	大川 宣容 教授	看護の仕事	264
				地域教育研究センター	鈴木 康郎 教授	教師になるには	
8	安芸高等学校	令和3年10月20日	高校1・2年	文化学部	宇都宮 千穂 准教授	文化学部でできることって何？	148
				看護学部	川上 理子 准教授	大学で看護を学ぶ意味	
				社会福祉学部	遠山 真世 准教授	「障害」を知れば社会が変わる	
				健康栄養学部	竹井 悠一郎 講師	健康と栄養、そして栄養学研究について	
9	高知学芸中学・高等学校	令和3年10月22日	中学3年・高校1年	看護学部	藤田 佐和 教授	看護を学ぶということ／看護の仕事	38
10	介良中学校	令和3年10月27日	中学3年	健康栄養学部	廣内 智子 講師	栄養バランスを考えた成長期の食糧備蓄	105
11	宿毛高等学校	令和3年11月5日	高校2年	看護学部	嶋岡 暢希 准教授	ようこそ！看護の世界へ	35
12	佐川高等学校(定時制)	令和3年11月10日	定時制全生徒・一般参加	文化学部	橋尾 直和 教授	若者語と土佐ことば	48
13	山田高等学校	令和3年11月24日	高校2年	文化学部	梶原 太一 准教授	観光土産商品の機能～おみやげという文化を考える～	39
				看護学部	坂元 綾 助教	安楽をもたらす援助	
14	高知国際中学校	令和3年11月24日	全学年・保護者	文化学部	白岩 英樹 准教授	「自分自身」の探し方	83
15	高知北高等学校	令和3年12月8日	高校2年	社会福祉学部	玉利 麻紀 助教	ストレスとつきあうコツ	60
16	窪川高等学校	令和3年12月21日	高校1・2生	文化学部	金澤 俊吾 准教授	ことばの楽しさ、面白さ—日本語から見た英語、英語から見た日本語—	8

(2) 高校生のための公開講座

高校生が、大学の教育・研究に触れ、学問に対する興味・関心を深め、学びの楽しさについて知っていただくことを目的に実施している。

延べ受講者数:179人

	実施日	テーマ	講師名	受講者数
県大立志塾2021	令和3年6月19日	高知県の地域課題をどう認識するか	地域教育研究センター 清原 泰治 教授	55
	令和3年9月19日	今から始める社会貢献活動の第一歩	文化学部 梶原 太一 准教授	61
	令和3年12月18日	発災目前！？そのとき何をすべきか	地域教育研究センター 一色 健司 教授	11
	令和4年2月12日	高知県:日本一の健康長寿県構想実現の課題～在宅療養体制の充実に焦点をあてて～	看護学部 川上 理子 准教授	52

【地域教育研究センター主催公開講座】

「知の拠点」として、県民を対象とした公開講座を随時開催している。YouTubeを利用したオンラインで開催した。
 延べ受講者数:417人

	テーマ	講師名	実施日	受講者数
豊かな暮らしにつながる学び	①末期でない人物の安楽死とヨーロッパ人権裁判所	文化学部 田中 康代 講師	令和3年7月20日-7月26日	32
	②足のケアで豊かな生活をー今知ってほしい足の手入れの話ー	看護学部 坂元 綾 助教	令和3年7月27日-8月2日	33
	③栄養素をバランスよく摂ることの意義	健康栄養学部 鈴木 麻希子 准教授	令和3年8月3日-8月9日	39
	④判断能力が低下してきた時に利用できる制度や支援 ー成年後見制度や権利擁護の紹介ー	社会福祉学部 西内 章 教授	令和3年8月10日-8月16日	36
	⑤災害後の文学者たちー関東大震災を中心にー	文化学部 田中 裕也 准教授	令和4年2月1日-2月7日	63
	⑥地域で子どもを守っていくために ～子どもの困難さと子どもを守る 地域の資源～	社会福祉学部 加藤 由衣 講師	令和4年2月8日-2月14日	64
	⑦健康長寿を支える、ロコモティブシンドローム予防の骨(コツ) ～栄養と運動からのアプローチ～	健康栄養学部 竹井 悠一郎 講師	令和4年2月15日-2月21日	67
	⑧住み慣れた場所で暮らし続けるためには	看護学部 竹中 英利子 助教	令和4年2月22日-2月28日	83

【第38回「本山町・高知県立大学公開講座」協定書に基づく公開講座】

本山町と本学で公開講座協定書を締結し9回の公開講座を行った。6講座以上受講した方に、修了証書を発行した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、7回目の講座は中止となった。

延べ受講者数:104人(第7回講座除く)

No.	公開講座「夜学」講座内容	講師名	実施日	受講者数
1	われわれはなぜ「読む」のか、「学ぶ」のか?	文化学部 白岩 英樹 准教授	令和3年5月17日	18
2	異文化理解の面白さ	文化学部 飯高 伸五 准教授	令和3年6月11日	19
3	おうちで健康長寿!	健康長寿センター 乾 由美 入退院支援事業専任コーディネーター	令和3年6月30日	8
4	セルフケア	看護学部 高橋 真紀子 助教	令和3年7月20日	13
5	コミュニケーション技術:「聞く力」を伸ばす	社会福祉学部 三好 弥生 准教授	令和3年10月28日	10
6	人と人がつながる仕組みについて ー防災などの事例からー	社会福祉学部 雑賀 正彦 助教	令和3年9月27日	6
7	(開催中止)	(開催中止)	(開催中止)	-
8	地域をいきいき! 元気にするために	健康栄養学部 島田 郁子 講師	令和3年10月22日	11
9	海洋プラスチックゴミはどこへ?	地域教育研究センター 一色 健司 教授	令和3年11月16日	9
10	あなたの地域を元気にするためのまちづくり	地域教育研究センター 清原 泰治 教授	令和3年12月7日	10

【安芸市シルバー短期大学】

安芸市と本学との包括連携協定に基づく連携事業の一つとして、安芸市社会福祉協議会が開催している「安芸シルバー短期大学」に本学教員が講師として登壇した。

No.	テーマ	講師名	実施日
1	生涯学び続けることの意義	地域教育研究センター 清原 泰治 教授	令和3年5月28日
2	土佐ことば再発見！！ー過去から未来へー	文化学部 橋尾 直和 教授	令和3年6月25日
3	最後まで住み慣れた地域で暮らすために	看護学部 森下 安子 教授	令和3年11月26日
4	(開催中止) 生産量日本一の県民として知りたいしょうがのこと	健康栄養学部 渡邊 浩幸 教授	(開催中止)

【立志社中】

平成25年度から、地域の課題解決に主体的に取り組む学生を大学として支援する「立志社中」をスタートさせた。9年目となる令和3年度は、6件のプロジェクト、146人の学生が地域活動に参画した。

(1) 令和3年度採択プロジェクト「立志社中」

No.	プロジェクト名	チーム名	交付額(利息含) [執行額]
1	土佐の暮らしとことば再発見～中土佐町を中心に～	from ZERO	141,270円 [131,000円]
2	～「学生」が変わる～、～「地域」が変わる～	かんきもん	86,280円 [10,000円]
3	「みんなのたいこ岩」プロジェクト	活輝創生実行委員会	100,440円 [66,330円]
4	健援隊 Cloverプロジェクト	健援隊 Clover	39,872円 [25,553円]
5	国際交流×SDGs	グローバルクラブ	36,823円 [0円]
6	住民と学生による持続可能な地域づくり	Pシスターズ	164,000円 [10,556円]

(2) その他実施事業

No.	事業名	実施日	内容
1	プレゼンテーション及び審査会	令和3年5月23日	応募のあった6件のプロジェクトについて、プレゼンテーション及び審査会を実施し、採択プロジェクトを決定した。
2	第1回スキルアップセミナー 「未来につながる地域づくりを考える」 講師:東埼玉総合病院 コミュニティナース 秋元 里美 氏	令和3年9月24日	高知県立大学健康長寿センター主催の公開講座をスキルアップセミナーに位置づけ、学生が聴講した。地域づくり活動をされている講師に取り組みの内容をご紹介いただいた。
3	第2回スキルアップセミナー 「つぶやきの育て方」 講師:株式会社 わらびの 代表取締役 畠中 智子 氏	令和4年1月14日	13人の学生が参加し、「つぶやきの育てかた」をテーマに、地域の方々とのコミュニケーションを深める上で必要な「作法・手法」などをワークを交えながら学んだ。
4	活動成果報告会	令和4年3月6日	各プロジェクトの活動を報告・評価し、成果や課題を共有することを目的として開催した。

【令和3年度全国公立大学学生大会 LINKtopos2021への参加】

9回目を迎えるLINKtoposは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から昨年度に引き続きオンラインでの開催となった。全国22の公立大学から92人の学生、40人の教職員が参加し、本学からは立志社中に所属している1人の学生が運営に携わり、全国の公立大学の学生と交流した。公立大学学生ネットワークの発足のきっかけとなった東日本大震災から10年の節目であった本大会は、災害が起きる前に・災害が起きた時に自分たちに何ができるかということをテーマに実施された。

テーマ : 「あれから、これから」

日 時 : 令和3年9月15日(水)10:00~18:00、16日(木)10:00~14:40

場 所 : オンライン開催(運営拠点は岩手県立大学)

【コミュニティサービスラーニング(CSL)サポートデスク】

地域の抱える課題を認識し、課題解決への関心を高めた学生が、専門的な知識や技術など大学での学びの成果を活かして、域学共生の理念に基づき、ボランティア活動を行うコミュニティサービスラーニングを支援するための窓口として、平成28年5月から地域教育研究センターに設置している。

延べ参加者数:24人

No.	概要	団体名	件数	参加学生数
1	小津高校SSH事業課題研究TA	高知県立高知小津高等学校	1	中止
2	小・中学校での学習支援	津野町教育委員会(夏季・春季)	1	中止
3	小・中学校での学習支援	三原村教育委員会(夏季)	1	中止
4	中学校での学習支援	安芸市教育委員会(春季)	1	中止
5	小・中学校での学習支援	高知市教育委員会	1	24

【包括連携協定】

本協定は、各市町村や企業・NPO法人等の団体と本学が多様な分野で緊密な協力関係を築き、持続・発展的に連携を深めることにより、未来を担う人材の育成や活力ある地域社会の形成・発展に寄与することを目的とする。

協定締結団体との連携

No.	団体名	事業名	期間等	概要
1	津野町	学習支援ボランティアの派遣	令和3年8月23日-8月27日 令和3年8月30日-9月3日 令和4年2月2日-2月25日 令和4年2月28日-3月4日	津野町の小・中学校へ学習支援や学校支援業務への学生ボランティア募集、取りまとめと津野町との調整を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。
2	三原村	学習支援ボランティアの派遣	令和3年8月30日-9月3日	三原村の小・中学校への学習支援への学生ボランティア募集、取りまとめと三原村との調整を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。
3	安芸市	学習支援ボランティアの派遣	令和4年2月18日-3月1日	安芸市の中学校への学習支援への学生ボランティアの募集を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。

【協力団体との連携強化に向けた取り組み】

連携の強化に向けて、高知県や市町村、学生受入団体等との情報交換を定期的に行っている。

No.	会議名	実施日	概要	対象	出席者数
1	域学共生連連携拡大会議	令和3年8月31日	大学との連携事例を知っていただく機会として、全体報告会と「共生」「減災」「学び」の3つのテーマに分かれ、本学の教員9人による事例発表と併せて、参加者との情報共有や意見交換を行い、諸組織との連携推進に向けた協働体制の構築、強化に繋げた。	高知県及び県内市町村の一般の方	70
2	連携推進会議	令和3年11月25日	地域教育研究センター及び健康長寿センターと自治体との連携事例について当該連携団体と共に報告を行い、出席者との情報共有や意見交換を行った。	包括連携協定を締結している県内7市町村	24